

体験！伝統文化

其の十
平成31年2月27日発行

南丹市立八木東小学校



八木東小学校は、学校教育目標「意欲をもって学び、ふるさとを愛する心豊かな児童の育成」をもとにした教育活動を推進しています。

特に、地域の「人・もの・こと」から豊かな学びや体験をとおして、地域の様々な力を活かした教育活動の推進を努力点の一つとして掲げ、「ようこそ先輩」事業として豊富な体験学習の充実を図っています。

今回、「文化芸術による子供の育成事業－巡回公演事業－」を活用して皐風会（こうふうかい）から能楽師などの派遣を受け、能楽に関するワークショップ及び本公演を実施しました。

公演のために来校していただいた皐風会の演者の中に校区出身の先輩がおられ、キャリア教育の一環として取り組まれている「ようこそ先輩」事業としても、大変意義ある公演となりました。

能

能は歴史上の事件や物語などの文学作品を素材として書かれ、謡（うたい）と呼ばれる歌と、舞を中心に進行する歌舞劇です。亡霊や鬼、神そして女性など多くの主人公は能面という世界でも類のないほど繊細な仮面と、美しく豪華な衣装を着用します。

演技は狂言とは対照的に求心的で、最小限の動きで最大の効果をねらう表現方法をとります。地謡（じうたい）というコーラスや囃子（はやし）という楽器演奏を伴うのも特徴です。



狂言

狂言は中世の日常的な出来事を題材にしたものが多く、大半は二人か三人の少人数で演じられる、セリフを中心とした劇です。設定は中世ですが、描かれているのは現代でも変わらない人間の姿です。

一定の様式に則った演技で喜怒哀楽を表現しますが、比較的写実性をもつ開放的な演技で、セリフも聞き取りやすいので、初めて見る方でもすぐに楽しめます。



子ども達の豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力を養うため、事前に行われたワークショップでは、全校児童が阜風会代表で観世流能楽師の小島英明先生から、姿勢や歩き方、言葉遣い、声の出し方などの実演指導を受けました。

普段の生活では使い慣れないことばかりで戸惑う場面もありましたが、真剣に聞いて演じていくうちに上手に演じることができるようになりました。また、能や狂言の曲目やあらすじを知ることでも能楽をもっと楽しむことができるという鑑賞指導も受けました。

本公演の番組は、狂言「柿山伏」と能「羽衣」でした。最初に小島先生から見どころが紹介されました。そして、次のようなクイズも出されました。

「狂言に登場する山伏は、柿を何個食べるでしょう。」

「能に登場するシテ（月の世界の天女）とワキ（漁師の白龍）のセリフを聞き取り、人間界と天上界の違いを考えてみましょう。」

公演後の体験コーナーでは、代表児童が狂言独特の発声や構え（姿勢）と運び（すり足）を体験し、児童や参観に来られていた地域の方から大きな拍手を受けていました。

児童の感想

◆ 狂言について

シテ役の動物のものまねの声がかっこよくて面白かったです。楽しそうだから一緒に声を出してみたけど、うまく声が出せませんでした。

立つ姿勢、構えも教えてもらいましたが、あの膝を落とした姿勢は難しかったです。しんどかったです。



◆ 能について

小島先生が言っておられたように天女が衣を着たときから、宝物が想像できました。昔の人たちは想像力も使いながら演劇を楽しんでいたことがわかりました。想像する楽しさも味わうことができました。



昔から伝えられてきた伝統的な演劇を楽しむことができました。他の演目もたくさん見てみたいと思いました。



南丹教育局管内の小・中・義務教育学校における伝統文化に関する取組を、「体験！伝統文化」として南丹教育局ホームページに掲載しています。

南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/hantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

